

639名の歌声が阿弥陀堂に響く(本山御堂演奏会)!

— 仏さまを讃える大合唱に 敬念寺コールガンダーも参加 —



(御堂演奏会本番の様子 25.11.22 本願寺新報記者 森栄淳氏 撮影)



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会(であ)いの時間

小僧の目

▼昨年十一月初旬の夕方、玄関のチャイムが鳴り、何か嬉しそうな顔をしたご夫婦が揃ってお寺に来られました▼お話しを伺うと「敬念寺だより」第百十号の金色に輝く御内陣の巻頭写真を見たり「小僧の目」などを読んで感動し、法外なお祝いを喜捨(*①)してくださるといいます▼早速、本堂にご案内しお参りしていただきました▼地区世話人として、また会報組織運営委員としても長年ご奉仕いただき、日頃から、お寺の発展を自分の事のように喜んでくださっておられる方です▼お寺は阿弥陀様に抱かれています、ご先祖やご両親がいらつしやるところであり、今を生きる私たちの心より所であります▼しかも「浄土真宗の救いのよろこび」を拝読してわかるとおり、人生最後はお墓の下に帰るのではなく「この世の縁の尽きる時、(阿弥陀) 如来の浄土に往生生まれる」と、お聞かせいただいております▼そのお浄土を、仏説阿弥陀経に説かれているように表したのが浄土真宗・敬念寺の本堂、御内陣なのです▼今年も昨年に引き続き、第二期荘厳計画として内陣余間(*②)境「欄間」並びに余間脇「欄間」の修復を行う予定であります▼永代経懇志として、お扱いさせていただくと申しますと、今回は私共が元気のうちにさせていたたくもので、永代経は、また若い者にまかせると、有り難い言葉を戴きました▼命の帰依処であるお寺をもっともつと良くしていく、ご恩報謝の営みを、これからも皆様と一緒に相續してまいりましょう。

釋 玄真

- ①喜捨 喜んで寺に寄進し、施しをすること
- ②余間 本堂内陣中央に対し左右の間(七高僧像や聖徳太子童形像のある間)

ご寺院行事

- 3月21日(金) 春の彼岸法要 前10:00
講師 清水正宣先生 (和歌山県)
- 6月15日(日) 第3回早朝公開講座 前 7:00
講師 秋山深雪先生 (茨城県守谷市)
- 7月12日(土) 第31回ファミリー参拝 後 6:00
- 8月1日(金) ~10日(日) 第35回早朝連続参拝 前 5:30

ご定例法話会

- 3月20日(木) 講師 清水正宣先生 (和歌山県)
 - 4月20日(日) 講師 本多龍典先生 (兵庫県)
 - 5月20日(火) 講師 山名一徳先生 (富山県)
 - 6月20日(金) 講師 高橋純明先生 (新潟県)
 - 7月20日(日) 講師 遠山信敬先生 (福井県)
 - 8月20日(水) 講師 常盤井智行先生 (飯山市)
- いずれも毎月20日 夜7:00からです。

鷹野原さんの厳しくもユーモアのあるご指導のお蔭で、やる気を出した会員の努力が成果を上げて間に合った。普段の練習通りに御堂で歌えたことと、住職様ご夫妻を含む十一名の応援団に感謝しています。

旅行二日目は北区に在る光悦寺・源光庵・常照寺・金閣寺、左京区に在る平安神宮で、それぞれの紅葉をゆつくり、じっくり堪能し帰路についた。

今回の旅行に参加して、参加者全員の思いやりで一つになれたことを思う時、お念仏の心を更に深め、又広がっていくと感じました。

(間法会館でリハーサル)



(25.11.22)



しょう しき
青 色
しょう こう
青 光
五十九回

生糸岡谷の記憶を大切に

胡桃 清志 さん
岡谷市長地

体格もよく、素敵な笑顔と、おらかなお人柄の胡桃様にお話しをお聞きすることができました。お生まれは松本。下駄屋さんの四男に生まれ岡谷に移住されました。敬念寺とのご縁は、お父様が昭和三十七年に亡くなられた時からですが、当時、先々代の敬念寺ご住職様は、「去る者は追わず来るものは拒まず」と仰せられ、市外から来た私たちを快く受入れて下さり、感

謝の気持ちでいっぱいと言われた。敬念寺は大正十五年に岡谷に説教所を開設され多くの生糸工場に働く女性たちの心の支えとなり、そのご縁で、地方からの御門徒さんが多いのではないかと、これもまた生糸産業発展に繋がることであつたのではないかと語って下さいました。胡桃さんは、現在「近代化産業遺産を伝える会」の顧問をされているとのこと、今に残る岡谷の生糸産業発展の歴史を大切にしようとして活動されている、その熱い思いが伝わってきました。

「生きて動いている蚕が桑を食べて成長し、やがては動かない繭になり、その繭から美しい絹糸が出来るまでの過程を知るとは、生き物に感謝する心につながる、すなわち親鸞様のみ教えにつながるのではないかと思います。」と胡桃さんの生糸産業に対する情熱をしっかりと聞き取ることができました。

「旧蚕糸試験場」及び「旧農業生物資源研究所」と、唯一操業している「宮坂製糸所」の繰糸部門をそっくり移転し動態展示する「新蚕糸博物館」が八月一日に開設されます。この新博物館が市民に愛され、生糸産業で栄えた岡谷市の宝となること、生糸産業の更なる発展を願っている胡桃さんです。(滝川記)

もう一度、永代経について考える！ — 先祖供養の先にあるもの —

「永代経」はお経の呼び名

ではない！

永代経というのと、そういうお経があると思うかもしれませんが、そうではありません。

永代経とは、永代読経の略で、永代にわたってお経が読まれるということと、浄土真宗の盛んなところでは毎年永代経の法座(要)が営まれます。永代経を営んだ時に、寺に進納する浄財を永代経懇志と言います。これを一般に「永代経をあげる」と呼んでいます。

いうまでもありませんが浄土真宗の寺院は、親鸞聖人のお心、教えの中心です。その寺院が、未永く存続し、念佛の教えが子々孫々に伝わる法座(要)が永代経(法要)です。永代経の浄財が、寺院の改修、仏具の購入などに使われるのはそのためなのです。

— 寺院を維持し永代にわたって

仏法を聞く —

子孫が仏教(念佛)の教えを聞くためには、寺院を永代にわたって維持しなければなりません。

永代経が真宗の寺院はもとより門徒(檀家)にとっても、きわめ

て大切な法要・行事だということがわかります。しかし、その歴史は、それほど古くはありません。

一般の寺院で永代経法要が営まれたのは、江戸時代の後期だとされています。歴史的には、比較的新しい行事(法要)ですが、現在では、真宗各派にとっては欠かせない法要・行事となっています。

永代経には二つの意味があるとされています。一つには、お寺が維持されること、もう一つは、子孫が永代にわたって仏法【仏の教え】を聞くことができることです。

ところで、いろいろ言っているが、他の宗で言う追善回向・供養ではないか、と思うかもしれませんが、そうではありません。

— 永代経は追善供養・回向

ではありません —

浄土真宗において、永代経で問題となるのは、他宗で言う追善供養との関係です。ごく普通に考えれば、永代経の懇志は故人の追慕の思いから納められるものと、思うのが普通でしょう。

実際、永代経を営むときの表書きには故人の法名等が書かれることが多いことも事実です。このことから、結局のところ追善供養で

はないか、と言う気持ちを抱いてしまうのかもしれませんが。

たしかに真宗では追善供養と言う立場は取りません。しかし真宗門徒と言えども、先祖・父母がいなければ、現在の自分は存在致しません。先祖への追慕の念は誰にでもあるのであり、それを否定しているのではありません。

ただ、私が亡き人の為のみに、善を積み供養してあげているのではなく、大切な両親を生涯支え続けて下さった無量の、阿弥陀様の働きがあればこそでありますから、その感謝と敬いの心を持って永代経を勤めさせていただいている、と言うことではないでしょうか。

永代経法要では法話があります。その法要のご縁に遇い法話を聞くことであります。それがとりもなおさず、亡き人の縁で仏法を聞く、あり難いご縁なのであります。

— 亡き人をご縁にお念仏の

教えに触れる —

永代経の特徴のひとつは、必ずお寺におまいりし、お話しを聞くことです。

親鸞聖人の教えが、永代にわたって伝えられるように願ひ、また、聞法の道場となるよう永代経の懇志を上げさせていただくのです。

くりかえしますが、永代経の心とは、追善供養のためではありません。故人のためにのみ、お経を

あげるのではなく、故人への追慕を縁として、仏法を聞くことでもあります。

純粹には、阿弥陀如来様への報恩謝徳の思いから、お念仏申しつ孫子の代まで、ご一緒にお寺を守ってまいりたいと思います。

第二期荘厳計画が行われます！

昨年に引き続き敬念寺では、本堂内陣の欄間、六枚の余間境の欄間・余間脇欄間四枚を修復する計画で、準備を進めております。資金は今までお預かりしております。永代経懇志を充当いたします。しかし、それにも限りがあります。

「葬儀の際は一応のお布施をしましたが、時間がたち、整理したところ兄弟で分けるだけでは申し訳ない、阿弥陀様に抱かれていた故人にも」と、「元気な中に私の遺志で」。「身寄りがないので、最後はお寺におまかせします」などお寺のために、の一心でお心を、お寄せいただくケースなどがありました。八十二年のまだ若い歴史のお寺です。まだまだ、させていただけねばならないことも多々あります。が、今までお寄せいただいた懇念に心から感謝の誠を捧げると共に、そう遠くないうちに、独立して永代経法要をお勤めしたいと考えております。

特集

敬念寺の教化活動 ～現状と展望～

日ごろ教化活動に参加・協力を戴き、有難うございます。紙面を通じて、敬念寺における教化活動の概要を紹介させていただきます。

◇◇◇◇◇

最初に、『教化』という言葉について説明しますと、「教化(きょうけ)とは、あらゆる人々を真実の教えに導きいれること、教導化益(けうどうけき)の略」(浄土真宗辞典)とあります。

ここから分かりますように、敬念寺・教化委員会の教化(きょうけ)活動は、「宗祖・親鸞聖人が説かれた『本願念仏のみ教え』に、門信徒の皆さんが遭遇される機会を提供させて戴く活動」ということが出来ます。

敬念寺の教化活動には、定例的な『日常教化活動』と、年間行事としての『教化行事を伴う教化活動』の二つがあります。

日常教化活動

①日曜礼拝：毎週日曜日

朝七時から、全員による二十分程のお勤めの後に、住職(若院)さんからの法話があります。

②定例法話会：本願寺布教使による法話会が、毎月二十日夜七時から本堂で開催されます。

易しく分かりやすい、浄土真宗・親鸞聖人のみ教えを聴聞させていただきます。

教化行事を伴う教化活動

(行事日程は、お寺配布の『法語カレンダー』最終頁を参照してください)

③ファミリィ参拝：夏の夜に、お子さん、父母、祖父母を含めてご家族でお寺に参拝して本堂に集い、また境内で流しソーメンや綿あめ・景品ゲームなどを楽しみ、ご家族でお寺に親しんで戴く行事です。

④早朝連続参拝：真夏の早朝の清々しい本堂に参拝し、全員での勤行の後に、浄土真宗に関わる易しい連続講座が開かれます。例年七〜八十の方が参拝され、今年で三十五回目となる敬念寺の伝統行事です。

⑤報恩講：浄土真宗の宗祖・親鸞聖人のご苦勞を偲び、そのご恩に報いるようお念仏を、より一層味わわせて戴くために勤められる法要です。

親鸞聖人を讃える法要・法話に続き、婦人部の方々がご奉仕された食事(お齋)を戴きます。

⑥親睦・研修旅行：例年十一月の中・下旬頃(報恩講の後)に行われるバス旅行です。

昨年は一泊二日で京都の本山にお参りし、仏教讃歌を合唱する『御堂演奏会』に参加するとともに、紅葉の名所を巡りました。

また、敬念寺には仏教讃歌を歌う会としてコールガンダー(婦人部主管・会員三十名)があり、月二回の合唱練習を行い、仏教讃歌コーラスを通じて仏教・親鸞聖人の「み教え」に触れる活動を行っています。

以上、敬念寺の教化活動を紹介してきましたが、教化活動を通じて門信徒の皆さんが宗祖親鸞聖人のみ教えに触れて味わいを深め、「親から子へ、子から孫へ」と、み教えが次の世代に繋がれていくことを願っています。

お寺の教化活動への参加対象者は、特別な人ではなく全ての門信徒の方々です。皆様に向けて門戸は開かれていますので、どうぞ気軽ににお寺にお越し下さい。住職・坊守さんを始め門信徒会関係者一同が、笑顔で皆様の参加・参拝をお待ちしています。

(教化委員長 千原博幸)

敬念寺同好会へのお誘い!

☆「コールガンダー」

仏教讃歌を歌う会

・例会 毎月第二火曜日

午後一時〜三時

・毎月二十日定例法話会終了後

連絡先 宮下アキ子 22-2322

☆「敬香会」

菊作りのお仲間グループ

・先輩の講習・指導があります

連絡先 大洞 軍治 22-0172

☆「敬水会」

ゴルフの同好会

・年二〜三回のコンペがあります

連絡先 井上 利美 23-4698

予告 第3回 敬念寺早朝公開講座

今年も早朝公開講座を開催いたします。日本の宇宙開発の先頭で活躍された先生のお話です。興味・関心のある子供さんも一緒にどうぞ!

時・所 6月15日(日) 敬念寺本堂 前7:00~8:30
講師 秋山深雪先生(茨城県守谷市)
講題 「宇宙と地球のふしぎ」
講師略歴 宇宙航空開発機構の執行役員を勤め、現在は公益財団法人日本宇宙少年団の事務局長



ご住職のお話しに笑顔がこぼれる



阿弥陀様に手を合わす皆さん 25.11.30

昨年十一月茅野市上條光雄さんの法事に、七人のお孫(ひこ孫)さんが、本堂中外陣に上がり、仏縁を深めました。

法事の際に初参式!



敬念寺の男声(アルト)陣が集合(25.11.22)



平成25年度 敬念寺「京都研修旅行」・龍谷山本願寺・御影堂(25.11.22)

京都研修旅行・御堂演奏会の写真から

春の彼岸・行事案内

彼岸とは、阿弥陀様のいる西方極楽浄土をさす言葉です。お彼岸には、親鸞さまに導かれて、阿弥陀様の浄土を願い、その「教えを聞く」(聞法)と受け止め浄土往生した、ご先祖に感謝し、しのびたいものです。

- ・3月18日(火) 彼岸の入り 前7:00
- ・3月20日(木) 3月定例法話会 後7:00
- ・3月21日(金) 春の彼岸法要 前10:00

講師 清水正宣先生 (和歌山県)
講題 「ご一緒に往生浄土の旅を」

*お彼岸中、会館ロビーでお数珠を無人販売します。
*20日・21日は終了後、お茶の接待があります。



(26.2.16)

トピックス! 大雪と続く寒波に親鸞様も驚く!

編集後記

今冬は御神渡りが現れず暖冬かと思いきや、一月に入り週末連続の大雪で五十センチを超える積雪となり、鉄道の運休、道路の通行止め、農業施設の倒壊など大きな被害が出てしまいました。干ばつや洪水など、世界的な異常気象の報道も多くなっており、この地球が心配になります。今号でご案内の「春彼岸法要」の頃には春めいてきますので、皆様のご参拝をお待ちしています。教化委員会から教化活動についてご案内させていただきます。

日常教化活動である、定例法話会や日曜礼拝にもご参拝いただき、親鸞聖人のみ教えに遇うことの多い年にいたしました(白田 記)

門信徒会年次総会

—4月26日(土)午後5時半より開催—

総会は地区等世話人の代議員制です。地区世話人を通じてご意見をお寄せ下さい。

日時:平成26年4月26日(土)
午後5時30分開催

場所:敬念寺本堂・講堂

議題

1. 平成25年度事業・会計報告
2. 平成26年度事業・予算案承認の件
3. 役員改選の件
4. その他

終了後、懇親会を開催します。(会費1,000円) お車はご遠慮ください。